

一般質問

岡本 俊

(市民連合)

新総合計画の根幹である
まちづくりビジョンは

問 地方を取り巻く時代環境は、高度情報化、少子高齢化の進展、環境問題、厳しい経済・財政状況の中で市民ニーズの高度化・多様化が進んでいる。新たな総合計画は富良野の将来像を描き、問題解決型の手段先行でなく理念を伴うビジョンを示すことが政治の責任であり、分りやすい言葉で市民と共有できるものでなくてはならないと認識する。総合計画について伺う。

答 市民の暮らしを地域と行政が支えあい、安心で未来に希望をもって暮らしていけるまちを目指す。若い世代が安心して子育てができ、高齢者の経験や技術が社会経済に生かされる状況づくり、農業、商工業、観光振興との連携を通して、市民や地域が将来に安心と希望を共有し、誇りを持って行動できる環境をつくり、市民と地域、行政が連

携してまちづくりを進める。

子供権利条約制定は

問 子供達は社会的要因に無抵抗であり、だからこそ大人達が健康で健やかに育つ環境を社会全体で支える責任がある。子供を大切にしない社会に未来はなく、すべての人権課題の基礎である。

富良野市は子供権利条約を制定し子供を守るべきではないか。

答 子供の基本的な権利を守る環境づくりは重要なものと認識し、「すべては子ども達のために」を合言葉に対処している。子ども達の権利保障に向けて「富良野市次世代育成支援地域行動計画」後期に盛り込みながら、積極的に推進したい。



すべては子ども達のために

今 利 一

(市民連合)

政策的誘導はどの様な手法で

問 富良野市農業及び農村基本計画の中で「需要に即した生産の促進」との記載があるが、主要な作物別の生産振興についてどの様な手法で政策誘導しようとしているのか伺う。

答 市は多様化する農産物の需要に対応するために、消費ターゲットを明確に把握。生産体制や産地体制を再構築することは、生産者や生産組織自身が行なうことが必要である。

問 基本計画の中で「環境と調和のとれた農業生産」とあるがどの様な政策誘導を考えているのか。また、遺伝子組み換え作物の考え方は。

答 「富良野市営農活性化対策協議会」が中心となり、土壌診断に基づく適正施肥を推進、土づくりのための施肥や堆肥散布用の機械導入などを「中山間地域等直接支払い制度」の協議会事業の中で行なっている。

安全安心農業推進の観点から、遺伝子組み換え作物の栽培は行わないよう、関係機関・団体と連携し、生産者を指導。

新エネルギービジョンは、
現在策定中



エネルギー豊かな富良野の自然

問 新エネルギーの発想は、エネルギー多消費型のライフスタイル自体をどう変えていくかが問われている。低炭素社会に向けた行動計画、長期ビジョンは。

答 新エネルギーの導入の必要性は、これまでにも増して高まっている。地域新エネルギービジョンは、現在策定中。導入に当っては、地域に利用可能なエネルギー資源がどの位あるのか調査することは必要不可欠。